

# ベリリウム同位体による 縄文土器胎土のグルーピング 長野県川原田遺跡出土の土器について

Beryllium Isotopes Study of Middle Jomon pottery  
from the Kawarada Site

坂本稔・今村峯雄

## はじめに

①試料と実験

②結果と考察

まとめと展望

## 【論文要旨】

長野県川原田遺跡から出土した縄文土器43点について、胎土中の微量元素であるベリリウムの同位体 ( $^{10}\text{Be}$ ,  $^{9}\text{Be}$ ) を測定し、土器型式および鉱物組成との比較を行った。

$^{10}\text{Be}$  は大気圏上層で宇宙線の作用により作られ、降下して堆積物に取り込まれるため、その濃度は粘土層の堆積環境を示す指標とされる。一方  $^9\text{Be}$  は始源的な物質で、岩石学的な特徴を示す。

$^{10}\text{Be}$  とベリリウム濃度との関係を示したグラフからは、川原田遺跡を特徴づける焼町類型土器、および勝坂式土器はほとんどが類似した値を示す一方で、阿玉台式などの外来系の土器はそのグループから外れることが読み取れる。土器胎土の岩石、鉱物組成を分類した水沢氏の結果と比較すると、やはり該当数の少ない例外的な土器が特徴的なベリリウム同位体比を示している例が多い。異なる方法によるグルーピングが類似した傾向を示したことは、土器の胎土および混和材の起源について有意な束縛条件を与えるものとして注目できる。